

## トロント公共図書館における多文化サービス - 移民向けプログラムの変遷 -

新岡 美咲

多文化主義を国是としているカナダ、その中でも特に移民の多いトロントにあるトロント公共図書館では、英語を母語としない人に対して英語教育や定住プログラムを提供するなど、充実した多文化サービスが提供されている。これまで、日本においてもカナダの図書館における多文化サービスに関する研究は行われており、その中にはトロント公共図書館に焦点をあてた研究もあるが、トロント公共図書館における多文化サービス、特に移民向けの ESL 以外のプログラムに関しては、具体的にはどのようなプログラムが行われ、それがどのように変化してきたのか、といった研究は行われていない。そのため、本論文ではカナダのトロント公共図書館で行われている移民を対象とした多文化サービスの現状を明らかにし、トロント公共図書館が提供している移民向けプログラムの変遷を追う。

現在トロント公共図書館では、1998 年より図書館情報雑誌『What's On』を季刊で発行しており、ここにはトロント公共図書館が提供している様々なプログラムや、図書館で開催されるイベントなどが紹介されている。中でも移民を対象とした「ESL & Newcomer programs」欄が情報発信源となっている。ついてはこの欄に掲載されたプログラムがこの約 15 年間でどのように変化しているのか、その変遷を追うとともに、トロント公共図書館年報やトロント市統計などから、プログラム変遷の理由を考察する。

分析の結果、トロント公共図書館では、移民が多くを占めるトロントの社会情勢に合わせた多文化サービスを提供していること、その上で近年は移民がカナダ社会で生活してゆく上で困窮しないために、就職活動支援などの定住プログラムを多く提供していることが明らかになった。

なお、世界各国で推し進められてきた多文化主義だが、近年では批判も出始めている。こうした批判に対抗する形で、近年新しい考え方として、主としてカナダで唱えられているのが、インターカルチュラリズムという概念だ。インターカルチュラリズムの視点から今回のトロント公共図書館における多文化サービス、特に移民向けプログラムについて見ると、一方的なマイノリティー文化の擁護と見られかねない他言語によるニューカマープログラムが減少し、トロントのマジョリティーの保護にもつなげる定住プログラムの比率が増大していることが分かる。現在の日本の公共図書館における多文化サービスは、日本と他国の文化の相互理解や、外国人に対する一時的な情報提供サービスという観点が強い。しかし今後は、日本の公共図書館においても就職活動支援などの定住サービスや言語教育プログラムが欠かせないものとなるだろう。

(指導教員 溝上智恵子)